

## 令和4年度第1回四街道市総合教育会議議事日程

日時：令和4年10月26日（水）

午前11時00分から

場所：市役所第二庁舎第2会議室

- 1 開 会
- 2 市長挨拶
- 3 協議事項  
四街道市教育の振興に関する施策の大綱について
- 4 閉 会

## 第1回四街道市総合教育会議会議録

日 時 令和4年10月26日(水) 午前11時00分～午前11時50分

場 所 四街道市役所第二庁舎第2会議室

出席者	市	長	鈴木 陽介
	教	長	府川 雅司
	育	員	小舘 修
	委	員	豊田 恵子
	委	員	池田 肇
	委	員	秋山 伸子

出席職員	教	育	部	長	石川 智彦
	教	育	部	副 参 事	真田 裕之
	教	育	総 務 課	長	荒木 寿久
	総	務	係	長	小安 敦夫
	主			事	久保ももか

傍聴人 1名

### 開会宣言

教育部長

○**教育部長** それでは、会を進行させていただきます。ただいまより令和4年度第1回四街道市総合教育会議を開会いたします。

現在の傍聴人は1名でございます。

初めに、鈴木市長よりご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

○**市長** 皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、令和4年度第1回四街道市総合教育会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、教育委員の皆様には、日頃より四街道市の教育行政の発展に格別のご高配を賜りまして、誠にありがとうございます。この場をお借りいたしまして、厚く御礼を申し上げます。

また、各委員の皆様とは、運動会やスポーツ大会など、子どもたちが関わるいろいろな現場でお会いをして、様々なお話をいただいておりますので、市長としてとても助かっております。現場を大切にしたいという皆様の姿勢に敬意を表させていただきたいと思っております。ありがとうございます。

また、毎年開催しておりますこの総合教育会議ですが、私にとっては初めてでございます。これが御承知のとおり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づいて開催されておまして、教育を行うための諸条件の整備、その他地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため

重点的に講ずべき施策について協議、調整を行い、簡単に言えば市長部局と教育委員会が方向性の共有をして、子どもたちのための教育施策を進めることを目的としております。

本日の協議事項につきましては、四街道市教育の振興に関する施策の大綱についてとなっておりますけれども、本市では教育委員会が策定していただいた教育振興基本計画に定める基本理念及び四街道市の教育が目指す姿をもって大綱としているということでもありますので、御承知おきいただければと思います。

現在教育委員会におきまして、令和6年度を開始年度とする第2期四街道市教育振興基本計画を策定していただいているところでございますけれども、市長部局としては総合計画、四街道市の最上位の政策の計画の策定について、鋭意作業を進めているところです。私自身もオンラインで夜に対話集会をするなど、できるだけ市民の方、特に今までなかなか聞けなかったような方から声を聞いております。また、今日の午後からもありますが、保育と幼稚園の現場を全部回っています。非常に大変ではあるのですが、やはりその場で聞けることがとても重要でありまして、今後、学校のほうも回らせていただければと思っております。

そういう中で、私としては、やはり子どもたちを真ん中というビジョンを持っておりまして、自分の将来に希望をしっかりと持っていて、生き生き育ってほしい、それをまちのみんなで応援する、各家庭に任せきりではなく、みんなで、まち全体で応援をしていくということを様々な施策の大きな柱にしていきます。とにかく、子どもにとってプラスかマイナスか、大人の理論ではなく、子どもにとってどうかというところを軸としていきたいと思っております。

また、皆さんも痛感されていると思うのですが、今教育現場では福祉的な支援が必要な子たちが多いという中で、教育と福祉の連携はこれからも、さらに求められると思っておりますので、そういう点でも市長部局と教育委員会の連携は、ますます重要になってくると思っております。

そして、四街道市で今の総合計画の中で、つなぐということを非常に大事なキーワードとして使っております。私もこの言葉は大好きでして、ぜひ次の新総合計画の中でも重要なキーワードとしていきたいのですが、子どもたちと私たちがつながる、子どもたち同士がつながる、子どもたちがいろんな支援につながる、今から未来につなぐ、いろいろな使い方ができる言葉なので、つながるという言葉は大事にしていきたいと思っております。そういったいろんな思いを持って、今総合計画の策定をしております、総合計画と教育振興基本計画、この両計画の整合を図りながら、しっかりと進めていきたいと思っております。

本日は、その根幹となります教育の基本理念について、事務局が用意してくださった案を基に意見交換を行わせていただきます。この中には、私が日頃から言っている要素も様々ちりばめられておりますので、その説明の中で、私の考え等々も受け取っていただけたらと思っております。

限られた時間の中ではございますが、ぜひとも皆様の忌憚のないご意見を賜りますようよろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○**教育部長** ありがとうございました。

これより、四街道市総合教育会議運営要綱第3条の規定により、鈴木市長に議長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○議長 議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

協議事項、四街道市教育の振興に関する施策の大綱についてでございます。

初めに、事務局から本日の議題について説明をお願いいたします。

荒木教育総務課長。

○教育総務課長 教育総務課長の荒木です。お手元の資料1の第2期四街道市教育振興基本計画の視点を御覧ください。協議事項である四街道市教育の振興に関する施策の大綱につきましては、現在検討を進めております第2期四街道市教育振興基本計画と整合を図りながら改定したいと考えております。

なお、新たな教育振興基本計画は令和5年度中の策定に向け、国の次期計画のコンセプトなどを参考に、現在本市の策定本部会や作業部会で協議を重ねているところです。

計画策定に当たり、資料にございますとおり、5つの視点に注目しています。1、社会の変化への対応、2、持続可能な社会をつくる人材の育成、3、多様なウェルビーイングの実現、4、子どもたちを真ん中に、みんながつながる計画、5、客観的な根拠を重視した教育政策の推進。

なお、各項目の取組につきましては、記載のとおり考えております。

この視点では、今学校で学ぶ子どもたちが社会の中心になって活躍する2040年以降の社会を念頭に置きながら計画を策定すること、そして子どもたちだけではなく、市民それぞれが活躍できるような社会をつくり上げていくことを理想としています。

子どもたちは、世界、日本の未来、四街道の未来を担っていく存在となります。家庭、学校、地域、行政が一体となり、子どもたちの成長をみんなで支え合うことで、その社会全体が成長することが可能となります。

また、人口減少や高齢化、デジタルトランスフォーメーション、技術革新、グローバル化や多極化、地域環境問題などがこれまで以上に進行することが予想されており、先行きが不透明で将来予測が困難な未来を迎えようとしているため、これまでのような予測される世界を想定し、そこから逆算して対応策を考えるだけではなく、私たちが望む未来を私たち自身で示し、つくり上げていくことが求められていくと考えております。

続きまして、資料1の2ページ、四街道市教育の振興に関する施策の大綱案を御覧ください。1ページの視点を基に、新たな大綱の案として作成したものです。1の基本理念として、学び つながり 輝きあい とともに未来を拓く人づくりといたしました。その基となる考えは現大綱を継承し、教育の根本は人づくりとしました。

なお、現大綱は資料2におつけしております。

資料1の2ページに戻りまして、新たな大綱案では人づくりが目指すべき人にスポットを当て、5つの目指すべき人を掲げ、基本理念としています。学ぶ人、つながる人、つなぐ人、輝きあう人、共に未来を拓く人、この5つの目指すべき人は、一人一人の力強く生きる力、人そのものが主体的に成長する意識を持つことを求めています。そのための学びが成長につながると考えております。

続きまして、資料2ページの下段になりますが、2、四街道市の教育が育む力として、1の教育理念の実現のために四街道市の教育が目指すべき6つの力を掲げました。相手を思いやり、あらゆる他者の価値を尊重する力、寄り添う。多様な主体と関係を築き協働する力、つながる。地域や社会の形成に参画し、課題を解決する力、解決する。変化しつづける社会を主体的に生きる力、生き

る。目標に向かって挑戦し、粘り強くやり抜く力、努力する。自ら学び、考え、判断し行動する力、動く。持続可能な社会を形成していくために、一人一人が社会形成をより強く意識することが重要になってくると考えております。

また、自分の人生をコントロールできる感覚や人生に対する目的意識を持つなど自律的、主体的に生きる力は、一人一人の幸せがみんなの幸せにつながる、また結びついていく多様なウェルビーイングの促進につながると考えております。

なお、右側には四街道の頭文字に合わせて表現しております。

以上、四街道市教育の振興に関する施策の大綱案についてご説明いたしました。よろしくお願いいたします。

○議長 ありがとうございました。

それでは、意見交換に移らせていただきます。

この意見交換は、これに基づかなければなりませんか。派生してもよろしいですか。

○教育総務課長 自由な意見でお願いできればと思います。

○議長 分かりました。

それでは、自由に意見交換をさせていただきたいと思います。

発言のある方は挙手をお願いいたします。

池田委員。

○池田委員 よろしく申し上げます。

私からは、基本理念と市の教育が育む力について、話をしたいと思います。

まず、これまでの基本理念なり、それから育む力、前は姿ですけれども、それに比べてみると斬新な感じを受けます。特に高年齢化、少子化、それから地域、家庭の存在が薄れていること、先行き不安な世界や日本の情勢を考えると、これらの言葉は合っていると思っております。

それから、育む力については、四街道に合わせた力の在り方というのは、とてもよいアイデアと思っておりますので、これからの今後周知するときにも、結構使えるかと思っております。まずは以上です。

○議長 ありがとうございます。

池田委員、斬新というのはいい意味で斬新ということによろしいですか。

○池田委員 はい。

○議長 分かりました。ありがとうございます。

感想や意見、質問、また何でも自由に、ぜひいろんな現場で子どもたちと向き合っている皆様のご意見を伺いたいので、お願いします。

豊田委員。

○**豊田委員** 私からは、視点の説明もしていただいた中で、やはり今のコロナ禍以降の社会情勢が反映されている視点だと感じました。特にこの社会変化によって、GIGAスクールを取り入れたことで、教育現場もすごく大きく変わったと思っています。

この視点の中にも出てきます、教育デジタルトランスフォーメーションだとかSDGs、ウェルビーイング、EBPMなど、聞き慣れない言葉、新しい言葉が教育の中に入ってきたなという感想と、でもその中でよく市長が使われている、子どもたちを真ん中にとというのは、これは誰もが分かりやすい表現で、このような新しい教育の形が組み込まれている視点を踏まえて、新しい大綱案ということでこちらを見ますと、やはり教育というのは人づくりなのだと感じます。それは、このように時代が変わったとしても変わることなく、教育の根本は人づくりということで、学ぶ人、つながる人、つなぐ人、輝きあう人、ともに未来を拓く人というのは、全部先ほどの視点が入り組み込まれており分かりやすくなっていると思います。その人づくりに必要な力が、結局は教育が育む力で、この6つの力をうまく具合に四街道の頭文字に語呂合わせをしていただいていますけれども、要点はしっかりつかんでいると感じました。

以上です。

○**議長** ありがとうございます。

確かに人づくりというのが大切だと思いますので、どういう人を目指すのかが分かりやすいですよ。これは事務局のほうでまとめていただき、とても分かりやすいと感じます。

良い評価をいただいているのですけれども、ぜひ厳しいご意見もいただきたい。もちろん評価されるのはうれしいことなのですけれども、何かこういうのを入れたほうがいいのではないかとか、ご意見があれば、教えていただければと思います。いかがでしょうか。

小館委員、お願いします。

○**小館委員** 今事務局からのご説明もお聞きしながら、本当にこれからの社会がますます高度化、複雑化する、変化が激しい時代を迎えていくという中において、いろんな人と子どもたちも市民もつながり協力し合いながら、その変化を乗り越えていく。しかも、単に乗り越えるのではなくて、それぞれが豊かな人生を切り開き、循環的な社会をつくるのが大事なのだということが説明で分かりました。そういう視点をもって5つの視点が提案されているわけですが、改めて国の検討会議等の資料も読み、さらに本市の実情、先日行われたアンケートの結果等も提出されておりますが、よく必要事項がまとめられ、未来にきちっと希望をつなぐ提案がなされているなという、正直な感想を持ちました。

とりわけ4番目の視点のところに、先ほどから委員の皆さんがおっしゃっていますけれども、子どもたちが真ん中のみんながつながる計画をこれから進めていくのだということは、市長さんの強い思いが反映されているのかなと思います。ここの部分は、教育委員会の強い思いでもありますので、子どもの教育や生活が一番大事なのだということをお大綱の中に入れてまちづくりをしていくという市長から教育委員会に大きな後押しをしていただいている、そんな項目だなと思いながらお聞きしておりました。

これを受けての教育理念のところですが、人づくりというのは、これまでと基本的にはス

ダンスは変わらないが、これからは子どもも大人も学びを通して、一人の成長だけではなくてみんなが多様な幸せをつくっていく、そしてそれをつくっていくためには、多様な関わり合いや助け合い、活動を大事にしていく、そういうことがうたわれていました。そこには、幸せをつくってもらう子どもとか市民があって、幸せをつくる主体者として、責任者としてみんながそこにいるのだ。そして、常にその中心にいるのは子どもなのだということがよく伝わってくる理念になっていると思いました。そういう面でも、大いにこの理念に賛成をしたいと思います。よく作っていただいたと思います。

一方で、単にその願いだけではなくて、適正な現状認識をしながら理念をうたってくださっている。例えばつながるという部分で、世界につながるあるいは未来につながるというところにおいては、これからグローバル化社会を迎えるに当たって世界につながっていくのは、やっぱり地元、ふるさと四街道をきちんと分かっている、あるいは、ふるさと四街道を誇りに思う、市民や子どもをつくっておかなければいけないわけですが、先日のアンケート結果を見ますと、児童生徒も保護者も市民も、ふるさと意識だとか四街道の自然や文化に関心があるという数字は極めて低いです。ここがしっかりと根づいていなかったら、世界に打って出ていく子どもには育っていきません。恐らくその辺の課題を認識したうえで、理念の項目にしているのだらうなと思いますので、そういうところを意識しながら、今度は進めていただけるとありがたいなと、思ったところです。

私としてこの後どうなるのかなと思ったのは、理念で、いずれも5つの項目、人で埋められています。現行の振興計画の中では、大まかに言うと学校教育、家庭教育、社会教育というような項目立てされてあるので、それがどんどん下位目標に落とし込みやすい流れになっていました。ここでは全ての市民、全ての児童生徒につながる言葉になっているので、実際にその施策に落とし込んでいくときにどういうふうに具体化されていくのかというのが、関心もあるところで、事務局の皆さんがこれから苦労されるだらうなと思いながら聞いていたところです。本当に素晴らしい案を提案していただいたなと思います。ありがとうございます。

○議長 参考になりました。確かに世界とつながるためにも、自分が今いるところというところがしっかりしていないと、ここがしっかりしていないとつながらないですね。それがアンケート結果でもちょっと低い。これは市長部局としても街への愛着というところは、もっときちんとやっていかなければいけない、目の前のことに、身近なところでちゃんとやらなければいけないというのは、今反省をいたしました。ありがとうございます。

秋山委員。

○秋山委員 皆さんがおっしゃられたとおりで、本当に素晴らしい内容と感じました。私会議今回初めてなので、保護者としての感想しか申し上げられないのですが、資料を見て読んだときにすごく分かるし、共感できる内容であると思います。子どもを真ん中に、本当に誰もが賛成、大賛成という内容だと思います。つながる人でまとめていくのもとても分かりやすいですし、2番の教育が育む力、これはやはり考えるということにつながると思います。世の中でも考える力をというのを耳にしますが、そこにつながると思います。自分で考えるというところは本当に素晴らしいと思います。

表面のほうなのですけれども、3番の多様なウェルビーイング、ウェルビーイングという言葉は

まだ世の中に、SDGs やサステナブルのようには、まだそこまで浸透していないと思います。ここが、分かる人とそうでない人、様々だと思いますので、もっと分かりやすくできたら、市民の皆さんにも非常に分かりやすくなると思います。一番上に第2期四街道市教育振興基本計画、もうここを見た時点で何か難しいこと言っていそうという印象が与えられてしまうので、3番のところだけがもう少しいい言葉がないかなと考えているのですけれども、なかなかいい言葉が思いつきません。こんなにすばらしくまとめた事務局の皆さんに頭が下がります。感想しかなく申し訳ありません。

○議長 ありがとうございます。

なかなかまだ浸透していない言葉、政府でも片仮名の表現が増えてきており、私も結構このような言葉を使いがちなのですけれども、相手に伝わらないと意味がないので、工夫しなければいけないと思います。ありがとうございます。

ほかに何かありますでしょうか。

私からなのですが、この基本計画の視点、表なのですけれども、この1から5というのは何かの順序になっているのですか。1が一番重要というわけではなくて、全部並列なのでしょうけれども、何か流れがあるのか否か、どういう具合で決めたのかを教えてください。

課長、お願いします。

○教育総務課長 こちらにつきましては、視点ということで5つを上げさせてもらいました。今後大綱案をつくるに当たって、検討する項目として上げてあります。順番については、やはり今後項目の順番と整合性を図るということも考えられますので、今後検討していきたいと思っています。

○議長 ということで、この順序については変わり得ると、落とし込みをしていく中で説明がしやすい順番に並べるということですかね。

小館委員がおっしゃったように、やはり私もよく自分でいろいろ考えたときに、理念はすごく伝えやすいのだけれども、具体的な政策にしようとしたとき、結構今までの行政とか、学校行政で分かりやすい分け方、カテゴライズされた中だと考えやすいのだけれども、ちょっと難しいなど感じることもあります。だから、そこら辺の作業の中でどういう順番だったらより良いか、そういうことを決めていくなかで、事務局は大変ですが、お願いいたします。

あとは、先ほど1階に外国の方がいらっしゃいましたけれども、四街道に特有のこととしては、やはり外国の、四街道に住んでくださっている外国の皆様ともどうつながるのか。地元から世界とつながるのも大事なのですけれども、世界から日本に、四街道に来られて徐々につながっていくという、これもつなぐ人とつながる人の役割ですけれども、やはり保育の現場では、それは話題にあがってしまして、四街道市特有のことだし、それは課題とか問題という言葉では言いたくはないですが、四街道市特有のこととして考えていかなければいけないと思います。ほかにも検討事項は沢山あると思いますが。

では、池田委員。

○池田委員 基本計画の視点で5つ上げられましたけれども、この中でやっぱり優先順位は、僕は



大事だと思えます。いろんな事業に入っていくごとに、やはり優先順位をつけなければしょうがないと思えます。限られた財政の中で進めていくわけですので、その辺も厳しい判断を、事務局の方が先頭になってしまうのですけれども、我々も、それから市長部局の皆さんもやはり共通の思いで切るということも、必要になってきていると思えます。今いろんな教育現場、学校だけではなくて社会教育もそうでしょうけれども、ありとあらゆるものが入り込んでいて、もう満杯状態。もうこういう状態が10年以上、続いているのではないかなと思えます。そういう言葉がアンケートの中にもありました。切るということは、それに恩恵を受けていた人たちを切るということにつながらないような手だてが必要になってくるので、その辺は本当に難しいのですけれども、やっぱり切るという視点も持つべきかと思っています。

それから、もう一つは理念なりこういうものを四街道市民のみなさんが知っているという状態になればうれしいと思うのです。

では、それをどうするかがなかなか難しいと感じますが、例えば学校で式典があれば式典の挨拶の中に、この育む力を入れ込むとか、周知をしていって、子どもが真ん中の四街道市を、市民からもよそへアピールできるような。できていなければ、教育委員会や市長部局が対応していくといいかなと思うのですけれども、やっぱり市民の皆さんにも知ってほしいと思いました。

○議長 ありがとうございます。

先ほど秋山委員からも名前が難しいとの意見がありました、私もそう思います。もう少し何か分かりやすい名前にできたらいいと思えます。四街道市の市長部局のほうもいい政策があっても知らないとか、使っていないとか、分からないというのが多いのです。様々ないい計画があっても。

これは、イメージなのですけれども、市民が手に取ってシンプルに分かりやすい、字がずらっと並んでいるものではなくて、どうやったら伝わるかというのを市長部局に考えさせているところです。デザインとか。

せっかくいいものを用意しているのでしたら、きちんと市民に伝わるように、そのもの自体もそうですし、池田委員がおっしゃったように、どのようにして様々な機会を通じて知ってもらおうかという視点は、やはり今まで以上に必要なかなと思えます。みんなで子どもたちのことをやるのだから。子どもたちとみんながつながる計画なわけだから。子どもだけではなくて、一般市民も知っていなければいけないことなのです。だから、どうやっていくかというのは、今後の課題だなと思えます。

○小館委員 今市長さんがおっしゃったことはとても重要だと私も思います。学習指導要領の堅い話になりますけれども、その前文の中に今と同じようなことが書かれていて、これからの学校教育を通して、よりよい教育を通してよりよい社会をつくっていく。つまり教育をすることと社会をつくっていくことは同じだと思うのです。そのためには、その理念というか思いをみんなが共有し合う、それから知ってもらおうとか知らせるとかというどちらが上だということではなく、同じ立場で責任があるという意味でここを周知していくということに関しては、これから大きな仕事になっていくのかなと思えます。それがなかったら、この理念は絵に描いた餅になりかねない。それぐらいの覚悟を持って一緒にやってみようという呼びかけをしていかなければいけないのかなと私も思います。

○議長 豊田委員。

○豊田委員 私もやはりこのつながるという、大切なのはやっぱり人づくりで、人をつくっていくという、この基本理念のほうにあるいろいろな人には、郷土愛も入っていましたけれども、私や市長は「地元四街道」とか「アイラブ四街道」をPRしているのですけれども、でもそれをやっぱり子どもたちが自分たちでそういうふうに四街道が大好きだと思ってもらえるような四街道にしたいと、そんなふうに見えるようになるにはどうしたらいいかというのを大人たちももっと広めるというか、その大人の姿がやっぱり子どもたちに反映ではないけれども、大人の姿を見て感じると思うので、やはり私たちが今できることをしっかりやっていきたいです。アンケートを見たのですけれども、アンケートの中には子どもたちが巣立って学校を卒業してしまっても、学校に興味があり、何かしら力になれることがあったら力になりたいと、どこからそういう活動をしていったらいいかという、一般市民の方が数多くいるのだなということが分かりました。あと当然アンケート自体をまとめる作業も、事務局の方は大変なことだったと思いますが、その中にはやはり人をつくっていくのが教育現場でもあり、家庭でも大切なのですけれども、教育現場の先生方の力というのも今とても大切で、本当に先生たちの熱意や努力で支えられている部分もあり、これからは今後そこも考えていかなければいけないところでもあると思います。この大綱はとてもすばらしいので、本当にこれからこのいろいろな施策を検討していくことが今後の大きな課題でもあると感じました。

○議長 ありがとうございます。

学校教育を担う教職員の皆様のことというのは、みんなで作っていくわけだから、当然教職員の皆様も大切な存在なわけなのですけれども、この中ではどこで入れていく形になるのでしょうか、事務局としては。そこまで書きづらいのかもしれませんが、ただ今豊田委員がおっしゃったように、やっぱり学校現場でももちろん人がつくられていくわけですから、それを担う教職員の皆様のことというのは、どこかに含まれているのか教えてください。

○教育総務課長 今委員から要望がありましたけれども、教職員の役割というのは非常に重要になっていると思います。こちらの計画については、その人が力強くそういった力を持つということを主眼にしていますが、そのために2番として教育が育む力としましたけれども、こういった力を教職員さん含め教育委員会のほうでいろんな施策を通じて力をつけてもらうというような考えで、こちらはございます。ただ、それぞれの教育の施策の中で、そういったものを具体的にいろんなことを検討していくようになると思いますので、全体がかかっていると思っています。

○議長 私が何を言いたいかというと、教職員の皆様もディーセントワークというか、働きがいのあるものというのをどうまちとしてつくっていくかという視点はやっぱり大切なのではないかなと思っています、そういうのはもちろん全体にかかっていることなのですけれども、政策の中にいろいろ入ってくる、具体的な施策の中に入ってくる、それで市長部局にも絡んでくるのではないかなと思います。

○教育総務課長 貴重なご意見、ありがとうございます。

○議長 そのへんもぜひ、せっかく市長部局と教育委員会が話すのであればということで、今後これもまたいろんなメンバーで話す機会があろうかと思えます。労力をつくって教育を担う方々のことをちゃんと考えないといけないと思えます。

では、ほかにございますか。

教育長。

○教育長 委員の皆様から感想とかご意見、まだ出るかも分かりませんが、今市長さんや4名の委員の皆様のお話を伺っていて、事務局を預かる立場として、今日提案させていただいた理念とか育む力、そして視点等々についてご意見を伺いました。そのご意見をできるだけ次の会議では示せるように、生かせるように作業を進めていくことが大事ではないかと考えます。言葉が確かに非常に多くて、内部ではこの言葉を読み合うときに共通理解はできているのですが、具体的に市民の方々に伝えるときにはどんなふうにし込んで、紙媒体にするか、あるいは電子媒体にするか、そこをこれから議論していきたいと思っているところです。

四街道市が今後どういう教育を展開していったらいい、その大本がこの5年間、令和6年度からの構想になります。その構想の大綱が基本理念であるし、育む力になると思えます。育む力の中で、今教職員の課題とか、児童生徒の課題とか、具体的に施策の中に入れられると思えます。事務局は今回までに本部会を7回開催、作業部会を10回開催して、いろんな議論を重ねてきて、今日こういう形をお示しさせていただきました。

令和の時代を自分なりに考えると、令和5年度までは創成期だと思うのです。令和の時代が動き出したと。今後令和6年度から令和10年度、5年間の見通しですけれども、これは充実期に向かっていくと思えます。そして、今の子どもたちが社会を形成して大人となっていくのが、先ほど事務局から説明がありました2040年、20年ぐらいのスパンですが、5年ごとに区切りながら考えていく。その基本的なスタンスを今日は示させていただきました。この後も外部の方の意見等々伺いながら、基本理念等との策定の作業を進めていきたいと思えます。今日は4人の委員の皆さん、市長さんの思い等々伺って、教育委員会がどう事業を展開するか、どう計画をつくっていくかという有意義な時間になったと思えます。

○議長 ありがとうございます。

教育長から本日のまとめのようなお話が出てきましたけれども、まだ時間がありますのでもし意見があれば、お伺いします。

○議長 それでは、終了予定の時刻が近づいてまいりましたので、閉めさせていただきます。

限りある時間ではありましたが、いろんな意見が聞けてよかったと思えます。これからも様々な場面でお話ができると思えますので、よろしく願いいたします。

皆様からのご意見を踏まえながら、引き続き本市の教育施策をはじめ、その他私が担う市政運営、発展に努めてまいりたいと存じます。

最後に、皆様から何かございますか。

○秋山委員 はい。まとめに入ったところすみません。

○議長 いいですよ。

○秋山委員 この子どもたちを真ん中というのが、一番に訴えたいところだと思うのですが、これを手にしたときに、教育振興基本計画と書いてあるので、家庭としては学校が子どもたちをどう教育していくのか、その目標などが書いてあるという印象を受けます。

○議長 家庭ではなく、学校教育中心の計画なのかという印象を受けてしまうということですね。

○秋山委員 はい。ですので、みんなが一体となって取り組むものというのを、そこを一番に知ってもらわないと、保護者は学校に子どもを行かせているだけという受け身側でしかなくなって、つなげていけないと思うのです。もうみんなで行き詰りますよと、家庭も全市民も巻き込んでいくぐらいのエネルギーをもっていかないと実現が難しいように感じます。私は関係ないと思われないようなアピールの仕方ではないと、みんなにならないかなと感じました。

○議長 やはり教育委員の中に、秋山さんのような保護者代表の方がいらっしゃる意義だと思うのです。市民の大多数がそういう感覚を持つと思うので、そこら辺をどうしていこうかなという視点は持った上で、これから策定を進めていただければと思います。

○教育長 秋山委員さん、今おっしゃられたこと、非常に大事だと思うのです。私も今まで気がついていなかったのですが、例えば、第2期四街道市教育振興基本計画にサブタイトルを入れるなど。事務局として、今のご発言をヒントにして、例えばやっぱりみんながつながる計画なのですよというのが振興基本計画だというように、今の秋山委員さんのお言葉を拝聴していて、私は思いました。全体を一つの言葉に表す、そのことも貴重なご意見なので、これから事務局のほうで作業を進めていく上の参考としていく、考え方に入れたいと考えます。

以上です。

○議長 秋山委員。

○秋山委員 保護者の方に配るときにはサブタイトルが上に来て、下にこの基本計画なのだよと、もうサブタイトルがメインかのように構成したほうが、多分保護者の方には良いと思います。実際はメインではないのですが。

○議長 見せ方ですね。

○秋山委員 アピールするときにはまるでそっちがメインかのようにすると目にした時、読むようになるのかなと思います。

○議長 では、参考とさせていただきたいと思います。ありがとうございます。  
事務局から何かございますか。

○教育部長 いろいろな貴重なご意見たくさんいただきまして、ありがとうございました。全体を少し整理させていただくこととして、幾つかお話しさせていただきます。

まず、視点ですけれども、最初の3つがいわゆる具体的な内容を考えていく上で、今の社会、これからの社会を考えていく上で、どういったことをいわゆる一つのフィルターにしていったらいいかというものとして3までは上げさせていただいております。

4の子どもたちを真ん中というのは、この計画の全体を整合させていく中でどのような調整をしていくかというときに、子どもを真ん中にして、そして教員だけではなくて保護者、地域、あらゆるこの四街道市に集う人たちが関わっていくような計画を立てていくということで、計画立案の調整の視点として、ここには入れております。

そして、5番目の視点というのは、いわゆる計画を、今後これをよりよく推進していく上で、根拠を明確にしながら、できるだけ実態として抽出して、その計画を調整していく視点として上げさせていただいております。ですので、3までと4と5というのは、少し視pointsの質が違うというところをご理解いただければと思います。

それと、基本理念に関して、そこに5点上げているのは、要するに我々がこれから育んでいこうとする人の姿ということであって、その姿を実現していくにはどのような力が必要か、いわゆる資質能力と今言うようなものですけれども、それがその2に上げているようなものになっているかと思っております。

これら今いただいたご意見を参考にしながら、もう少しいろいろな形で見直してみて、磨いていければというふうに考えているところです。

また、教育を学び、学ぶという言葉に置き換えて考えてみますと、いわゆる生きることは学ぶことであり、また人は生涯を通して学び続けて成長し続けていけると。そして、よりよく学んでいく人がよりよい市をつくっていくというスタンスに立っております。

また、その学ぶことそのものに充実感があり、また人生を豊かにしていくということに通じていく、先ほどのウェルビーイングというものにここにつながっていくというふうに考えております。そういう意味では、社会教育というものを学校教育と同等の重要な役割や意義があって、人の、市民の幸せ、そしてよりよい市をつくっていく一員としての資質を育てていくということにいろいろな関与を社会教育のほうもできるようにしていけばよいというふうに考えております。

今日お話しいただいたことは、そういったことに重要な示唆をいただくものがあったかと思いません。例えば豊田委員からは、大人の姿を通して、大人が生き生きと活動する中に、子どもたちがそういったものを目指す種が生まれればということもお話があったかと思いますが、社会教育の分野でどのような施策や事業を立てていくかということに大きな視点をいただいたというふうに考えております。

これから、今日いただいた内容と、またアンケートの内容を精査した上で、いろいろな調整をして第2回に進んでいきたいと思いますが、また第2回ではその上がったものをご説明させていただいた上で、いろいろなご意見いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長 どうもありがとうございました。

それでは、本日の協議事項が全て終了いたしましたので、進行を事務局にお戻しいたします。  
皆様には円滑な議事進行にご協力いただき、誠にありがとうございました。

閉会宣告

教育部長

○教育部長 どうもありがとうございました。

本日の日程が全て終了いたしましたので、以上で令和4年度第1回四街道市総合教育会議を閉会  
いたします。

どうもありがとうございました。